

第 208 回 MINERVA ビジネスプラン発表会

【平成 31 年 6 月 11 日(火) 開催 会場: 岩崎学園 (新横浜 1 号館 8 階)】

発表企業の都合により、2 番目と 3 番目の企業が入れ替わりました

1. 株式会社エフ・ピー・エス 代表者 堀 昌司 氏 (<https://fpsinc.co.jp/>)

【住所】 東京都江東区枝川 2-16-5 【設立】 1999 年 5 月 【資本金】 415,675 千円

【事業概要】 長年培った平面スピーカーの技術、そして平面スピーカー研究から派生したナノファイバーやナノシートといった最先端の技術をもって、今後、環境負荷低減や健康開発といった、21 世紀の最重要分野における世界戦略を進めてまいります。

【コメント】 平面派のスピーカーの特長は、①薄くて軽い、②ハウリングに強いので聞き取りやすい、③指向性があり、遠くまで届く、④高耐久、高リサイクル率でエコ、⑤原音に忠実ということです。次なるステップとしては、ナノファイバーやナノシートの最先端技術を用いて、身体のどこからでも音が出たり、聞くことが出来、脳まで音を伝達出来るようになりたいとおっしゃっていました。



2. アライドフロー株式会社 代表者 神田 昌彦 氏

【住所】 兵庫県西宮市戸田町 5 番 30-1201 号 【設立】 2016 年 1 月 【資本金】 45,300 千円

【事業概要】 「世の中に無いサイトメータを創造し、社会に貢献すること」が弊社のビジョンです。サイトメータとは、生物細胞の分析(アナライザ)および分離精製(ソータ)する装置の総称です。24 年間培ってきた弊社のフローサイトメトリー技術を下記のような製品に新しく事業展開しています。

①医療分野: 世界初の再生医療や細胞治療用高感度・高速・無菌セルソータの開発・製造・販売

近年の再生医療および細胞治療では、より優良な細胞を分離精製して、より臨床効果の高い治療を実現しようとしています。ところが、医療や治療にも関わらず、無菌で分離精製できるセルソータが世界で存在しません。そこで、完全無菌で高性能の新しいセルソータを開発しており、現在は開発段階ですが、2020 年末の上市を計画しています。

②酪農・畜産分野: Y 染色体牛精子用セルソータの開発・OEM 製造

酪農ではメス牛、畜産ではオス牛に需要が偏っています。このため、セルソータ技術を使用して牛精子を X と Y の遺伝子に分離精製し、人工授精によりオスとメスの産み分けの事業に参画しています。海外会社の受託開発中で、2020 年には OEM 生産を開始予定です。

③工業分野: フロー式粒子分析装置の開発、OEM 製造

工業製品であるトナーやアルミナ粉体品等は製造過程での粒子コントロール(大きさ、円形度等)が重要です。本装置はこれらの粉体を流送して、個々の粒子のカメラ画像から形状パラメータを高速に測定する機器です。形状パラメータの精度は個々の粉体を高性能に流送することが要求されるため、日本の粉体メーカーから開発受託し、2020 年には発売開始し、OEM 製造を受託する予定です。

【コメント】 神田社長は住友電気工業出身で ME・バイオ機器、回路接続の研究開発に従事されてきました。今後のマーケットとしては、細胞製造施設向けの無菌セルソータ市場が 1200 億円、研究用セルソータ市場が 1750 億円と想定しており、自由診療クリニック向けの無菌セルソータ市場は 3000 億円が見込まれております。



3. 株式会社ハッピーリス 代表者 吉田 理恵 氏 (<https://www.happyris.jp/>)

【住所】 東京都大田区本羽田 2-12-1 テクノ WING403 【設立】 2006 年 12 月 【資本金】 38,599 千円

【事業概要】 当社は工業用、医療・介護用の音響製品・センサーの開発製造販売を行っている。

特に近年は誤嚥性肺炎予防のための嚥下機能測定システムを製品化し、国内の病院、高齢者施設、訪問診療の現場で導入されている。当社開発の嚥下機能測定機器は特定管理医療機器(電子聴診器)として 2019 年 1 月認可された。日本人の死因の第 3 位が肺炎でそのうち誤嚥性肺炎は 9 割を占める。脳梗塞・癌等の治療が成功しても嚥下機能低下により誤嚥性肺炎で死亡するケースも多く、嚥下機能が低下しやすい高齢者および入院患者・在宅患者にとって誤嚥性肺炎に関わる対策は国にとって重要な課題である。しかし、詳細な嚥下機能の検査は内視鏡、造影検査が主で、身体侵襲性があり、患者側拒否などで十分に検査できていない状況である。

最近では、医療介護の財源不足、健康長寿の国策状況から、遠隔医療・ヘルスケア・未病予防・介護予防としての需要が高まってきたため、ヘルスケアサービスとして手軽に誰もが使える安価な製品を普及させたい。

【コメント】 吉田社長は元々音楽家。近年、嚥下機能障害の患者さんは 800 万人いると言われております。同社が開発した嚥下機能測定の『ごっくんチェッカー』は、圧と音を検知するセンサーで嚥下状態を可視化し、嚥下・残留等の音をスピーカーで聞くことが出来る機器です(特許出願中)。この機器は嚥下機能の確認だけではなく、脱水症状やいびき、無呼吸症候群を調べることが出来、また脳梗塞や隠れ脳梗塞の発見も出来るそうです。



4. 台湾工研新創協會(Taiwan ITRI New Venture Association)ご挨拶

台湾の工業技術研究院(ITRI)のOBたちがNPO法人として立ち上げた組織です。今回の発表企業から、日本で創業するパワーやベンチャーとしてのエネルギーを感じました。やはり技術は日本に学ばなければならないと思っています。将来に向かって日台との交流を深めていきたい。当法人のファンド規模としては2100万\$ですので、有望なベンチャーに投資していきたい。今回の視察を通じて、よく勉強しなくてはいけない点がたくさんありました。是非、皆様も台湾にもお越し下さい。熱く歓迎いたします。



《感想》 今回も様々な分野の企業に御発表頂きました。いずれの企業も新しいマーケットを開拓していこうとされておられて、今後の展開が楽しみです。

もし今後、発表会での発表をご希望される企業がいらっしゃいましたら、お早目にご連絡をお願い申し上げます。

NPO 法人ベンチャー支援機構 MINERVA
(株)TNP パートナース、(株)TNP オンザロード
井 汲 美 樹